

利根川水系及び荒川水系のダム等の現状についてお知らせします

～少雨により、ダム等で貯水量の減少が続いています～

利根川水系及び荒川水系のダム等における 2 月までの状況について、お知らせいたします。

関東地方の水源地である利根川上流域および荒川上流域では、少雨の状態が続いています。この影響で河川の流量が減少しており、河川に必要な流量を確保するため、ダム等では放流を続けています。その結果、ダムの貯水量も減少が続いています。

現在、関東地方整備局および水資源機構では、河川の流況や気象状況を注視しながら、ダム等の施設について、きめ細やかな操作を行っています。しかしながら、利根川水系および荒川水系のダム等の貯水量は、依然として平均を下回る状況が続いています。

関東地方では、これから季節の変わり目となる時期を迎えますが、雨の降り方は年ごとのばらつきが大きく、現時点では十分な雨が期待できる状況ではありません。このため、今後も慎重な水運用を行うとともに、状況に応じて必要な情報を発信してまいります。

なお、ダム等に貯留された水資源には限りがあります。日頃より節水にご協力いただいている皆さまに感謝申し上げるとともに、現在の状況を踏まえ、引き続き節水へのご理解とご協力をお願いいたします。

《2 月 26 日 0 時 ダム等の貯水状況》

利根川 9 ダム合計	貯水量 19,164 万 m ³	貯水率 35 % (過去平均の 75 %)
鬼怒川 4 ダム合計	貯水量 19,718 万 m ³	貯水率 78 % (過去平均の 103 %)
荒川 4 ダム合計	貯水量 5,438 万 m ³	貯水率 38 % (過去平均の 65 %)

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 埼玉県政記者クラブ 東京都庁記者クラブ
千葉県政記者会 茨城県政記者クラブ 栃木県政記者クラブ 刀水クラブ・テレビ記者会 水資源記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 河川部 電話：048-601-3151 (代表) FAX：048-600-1379

河川環境課 課長 藤原 (ふじわら) (内線：3651)

建設専門官 田島 (たじま) (内線：3652)

水資源機構 電話：048-600-6543 (直通)

危機管理監付 課長補佐 鈴木 (すずき)

利根川・荒川ダム群等の現状と今後の見通しについて



奥利根湖と利根川源流の山々（令和8年2月24日撮影）

令和8年2月27日

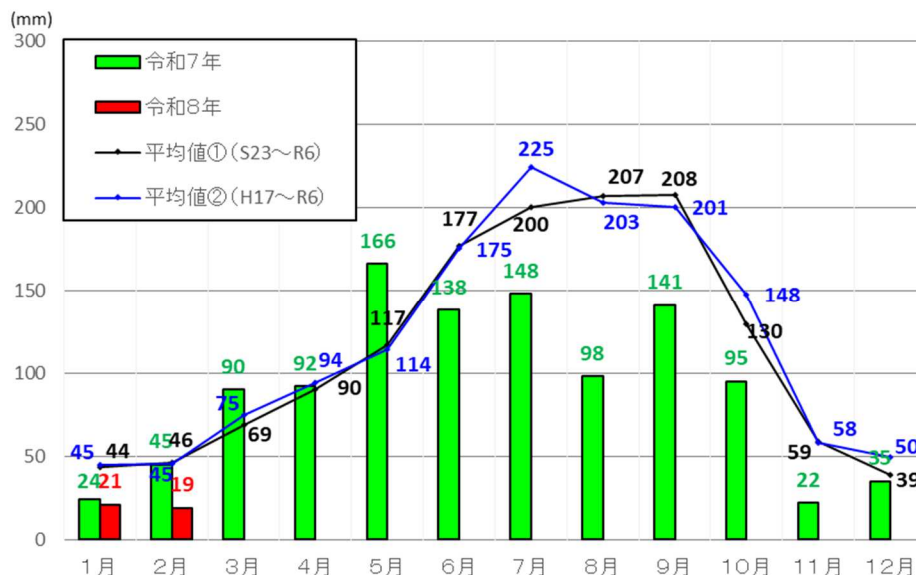
関東地方整備局

1. 利根川上流 9 ダム等の現状

(1) 利根川

1) 栗橋地点上流域平均降水量の状況（令和 8 年 2 月 26 日 0 時までの降水量）

栗橋地点（埼玉県久喜市栗橋地先）上流域における降水量は、6 月以降、平均値（（昭和 23 年～令和 6 年の 77 年間の平均）を下回り続けています。12 月は平均値 39mm の約 9 割である 35mm であり、1 月は平均値（昭和 23 年～令和 7 年の 78 年間の平均）43 mm の約 5 割である 21 mm でした。2 月は 26 日 0 時時点で平均値 46 mm の約 4 割である 19mm となっています。（図－1、表－1 参照）



図－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和 8 年 2 月 26 日 0 時まで）

表－1 利根川栗橋上流域平均降水量（令和 8 年 2 月 26 日 0 時まで） 単位：mm

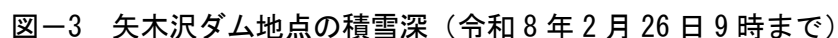
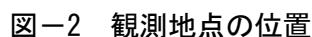
単位 (mm)	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
平成 2 7 年	57	36	63	86	45	221	248	207	300	29	127	33	1,452
平成 2 8 年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431
平成 2 9 年	61	37	56	73	95	97	240	274	113	368	18	22	1,454
平成 3 0 年	39	17	108	69	128	114	178	187	254	56	23	35	1,208
令和元年	26	17	75	96	108	248	249	195	95	489	56	36	1,690
令和 2 年	76	25	99	134	104	211	278	81	163	146	10	29	1,356
令和 3 年	34	45	102	78	95	181	256	271	151	77	59	70	1,419
令和 4 年	28	47	58	127	142	134	282	118	217	65	70	36	1,324
令和 5 年	22	26	86	64	138	270	90	193	154	102	48	23	1,216
令和 6 年	49	65	135	87	130	145	148	306	154	124	76	25	1,444
平均値① (S23~R6)	44	46	69	90	117	177	200	207	208	130	59	39	1,385
平均値② (H17~R6)	45	45	75	94	114	175	225	203	201	148	58	50	1,433
令和 7 年	24	45	90	92	166	138	148	98	141	95	22	35	1,094
平均値①に 対する割合	55%	97%	130%	102%	142%	78%	74%	47%	68%	73%	37%	90%	79%
平均値③ (S23~R7)	43	46	69	90	118	177	200	205	207	129	58	39	1,381
平均値④ (H18~R7)	42	45	77	97	120	178	216	194	201	148	57	49	1,424
令和 8 年	21	19											40
平均値③に 対する割合	49%	41%											3%

注) 平均値①、③は各年に対してデータが存在する期間（77 ヶ年又は 78 ヶ年）を平均したもの
平均値②、④は降水量の変化傾向を確認するために直近 20 ヶ年を平均したもの

(令和7年～令和8年 冬期)

今冬の各地点の積雪深は、現状では平均を下回っています。

(図-2~7 参照)



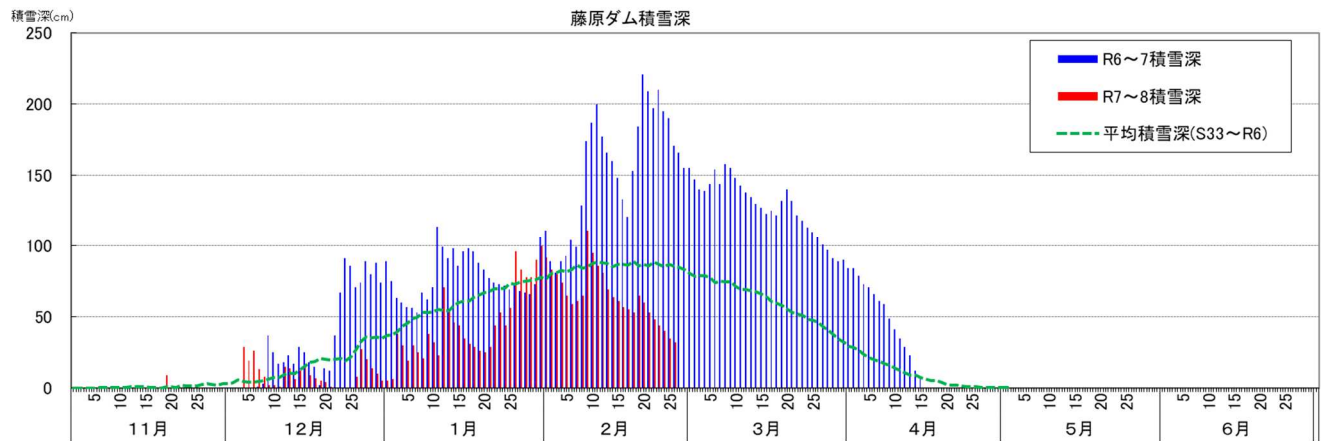


図-5 藤原ダム地点の積雪深（令和 8 年 2 月 26 日 9 時まで）

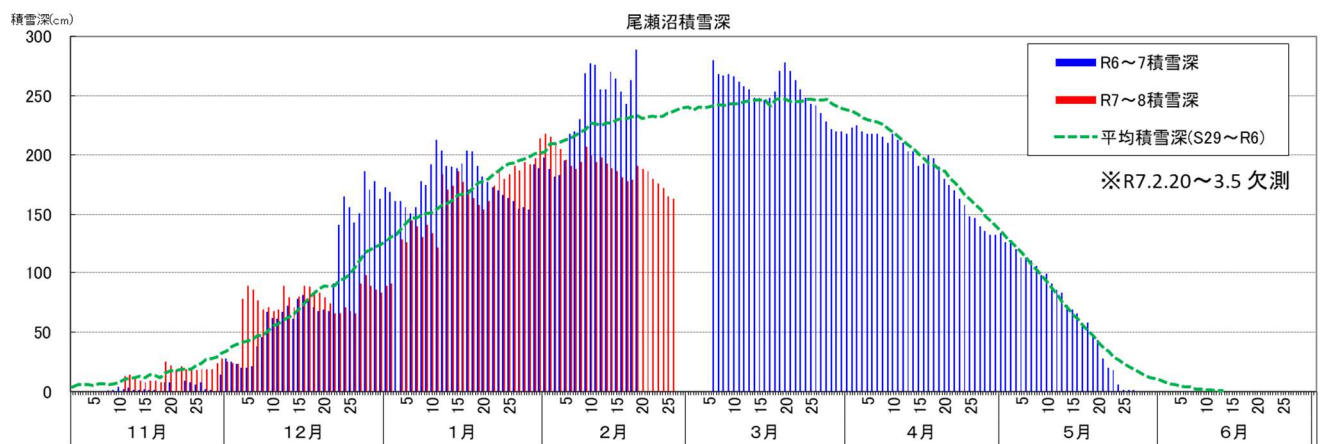


図-6 尾瀬沼地点の積雪深（令和 8 年 2 月 26 日 9 時まで）

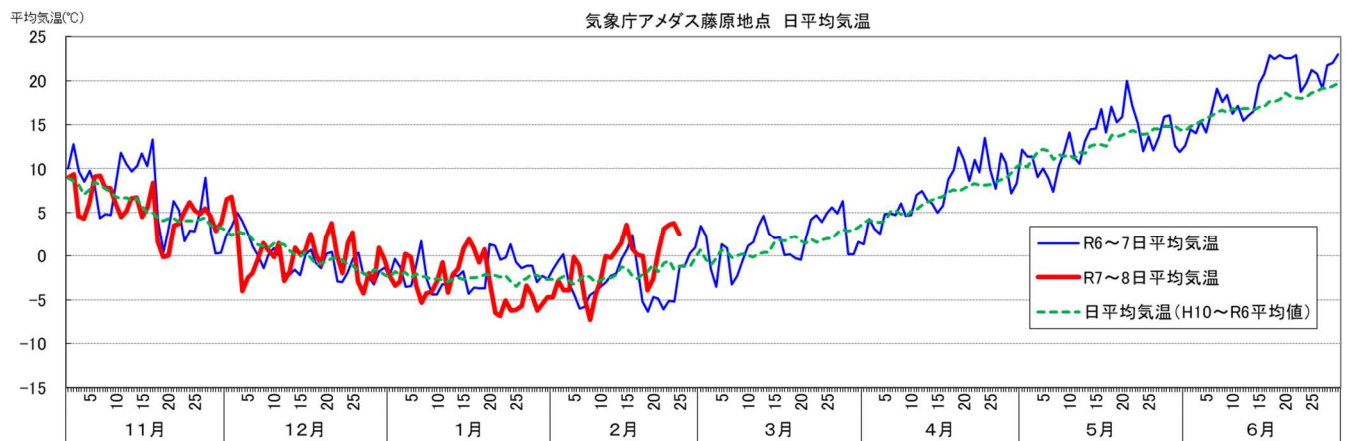
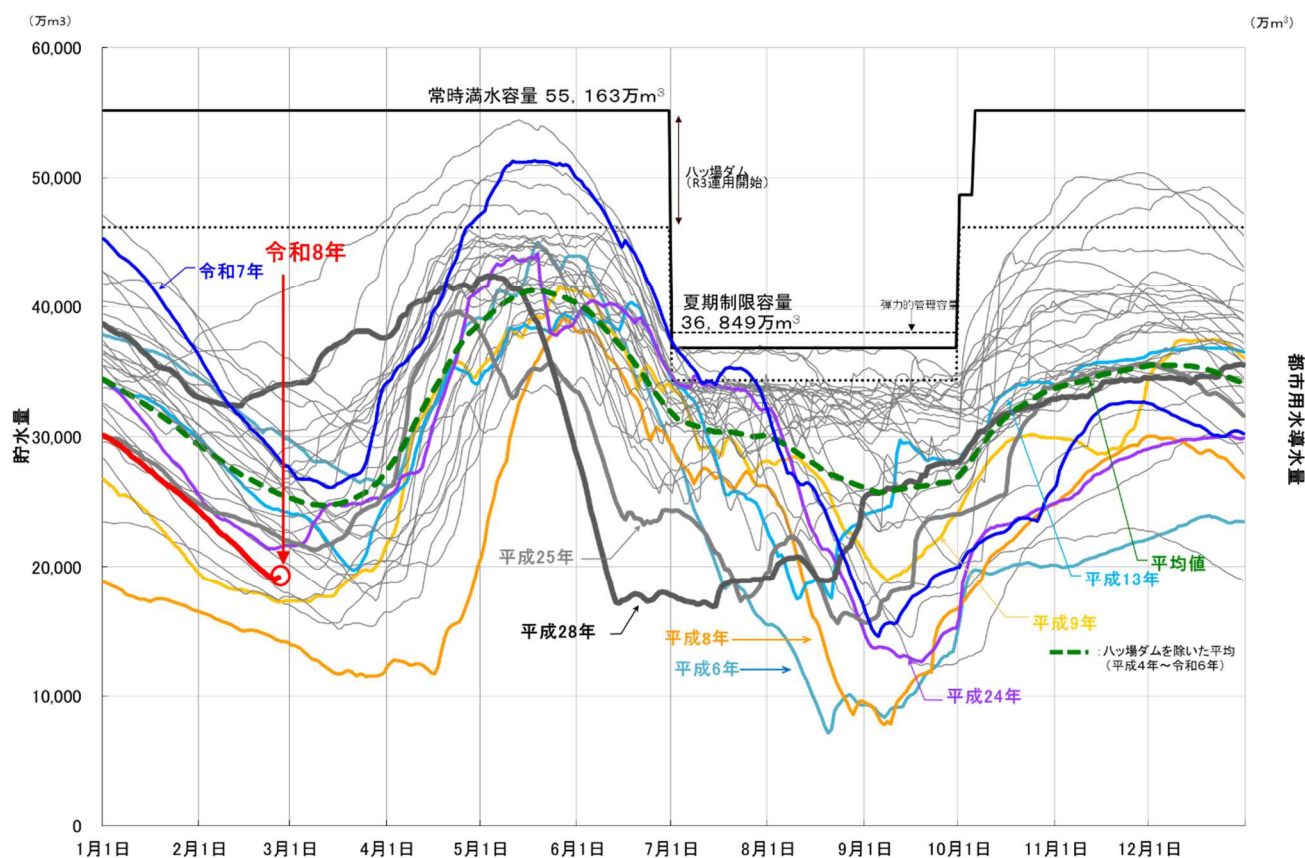


図-7 藤原地点日平均気温（令和 8 年 2 月 25 日まで）

3) 利根川上流 9 ダムの貯水状況等（令和 8 年 2 月 26 日 0 時現在）

利根川上流 9 ダムでは、9 月以降、台風 15 号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少により、貯水量は回復しました。その後、貯水量が大きく回復するような秋雨等のまとまった降雨もなく、11 月下旬から徐々に貯水量が減少し、令和 8 年 2 月 26 日 0 時時点の合計貯水量は 1 億 9,164 万 m³（貯水率約 35%）になっています。

（図－8、表－2 参照）



図－8 利根川上流 9 ダム合計貯水量図（令和 8 年 2 月 26 日 0 時現在）

表－2 利根川上流 9 ダム ダム別貯水量（令和 8 年 2 月 26 日 0 時現在）

ダム名	有効容量 (万 m ³)	貯水量 (万 m ³)	貯水率 (%)
矢木沢ダム	11,550	2,911	25%
奈良俣ダム	8,500	3,585	42%
藤原ダム	3,101	982	32%
相俣ダム	2,000	911	46%
藺原ダム	1,322	615	47%
ハッ場ダム	9,000	2,528	28%
下久保ダム	12,000	3,720	31%
草木ダム	5,050	3,120	62%
渡良瀬貯水池	2,640	792	30%
9 ダム合計	55,163	19,164	35%
8 ダム合計の平均値 (平成 4 年～令和 7 年)		25,630	(平均値に対して 75%)

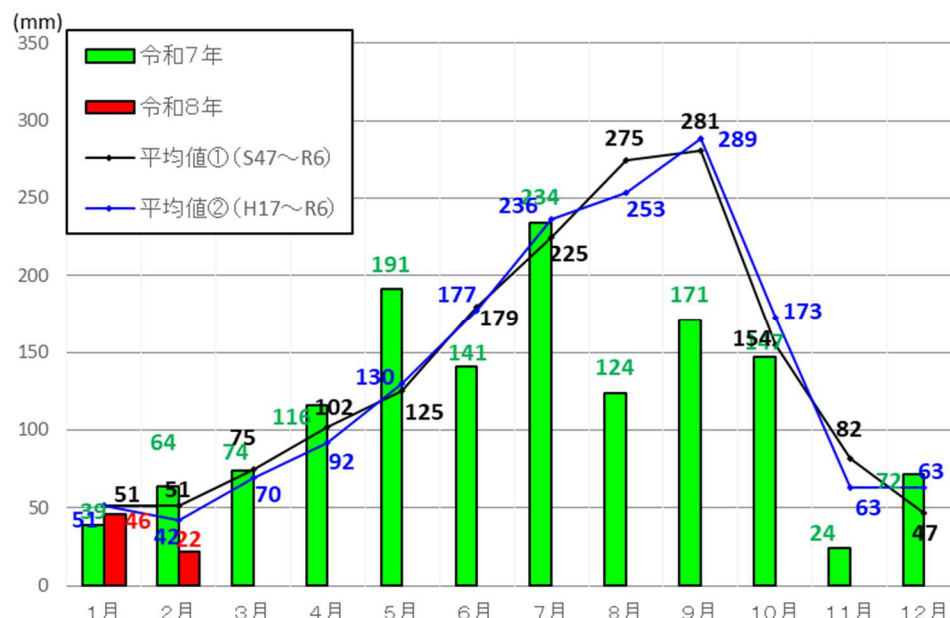
※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

※過去の貯水量平均値は、ハッ場ダム貯水量を含めず 8 ダムの合計貯水量で計算したもの

(2) 鬼怒川

1) 佐貫地点上流域平均降水量の状況（令和8年2月26日0時までの降水量）

佐貫地点（栃木県塩谷町佐貫地先）上流域における降水量は、8月から11月まで、平均値（昭和47年～令和6年の53年間の平均）を下回る状況が続きました。12月は平均値47mmの153%（72mm）であり、1月は平均値（昭和47年～令和7年の54年間の平均）51mmの約9割である46mmでした。2月は26日0時時点で、平均値52mmの約4割である22mmとなっています。（図－9、表－3 参照）



図－9 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和8年2月26日0時まで）

表－3 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和8年2月26日0時まで）単位：mm

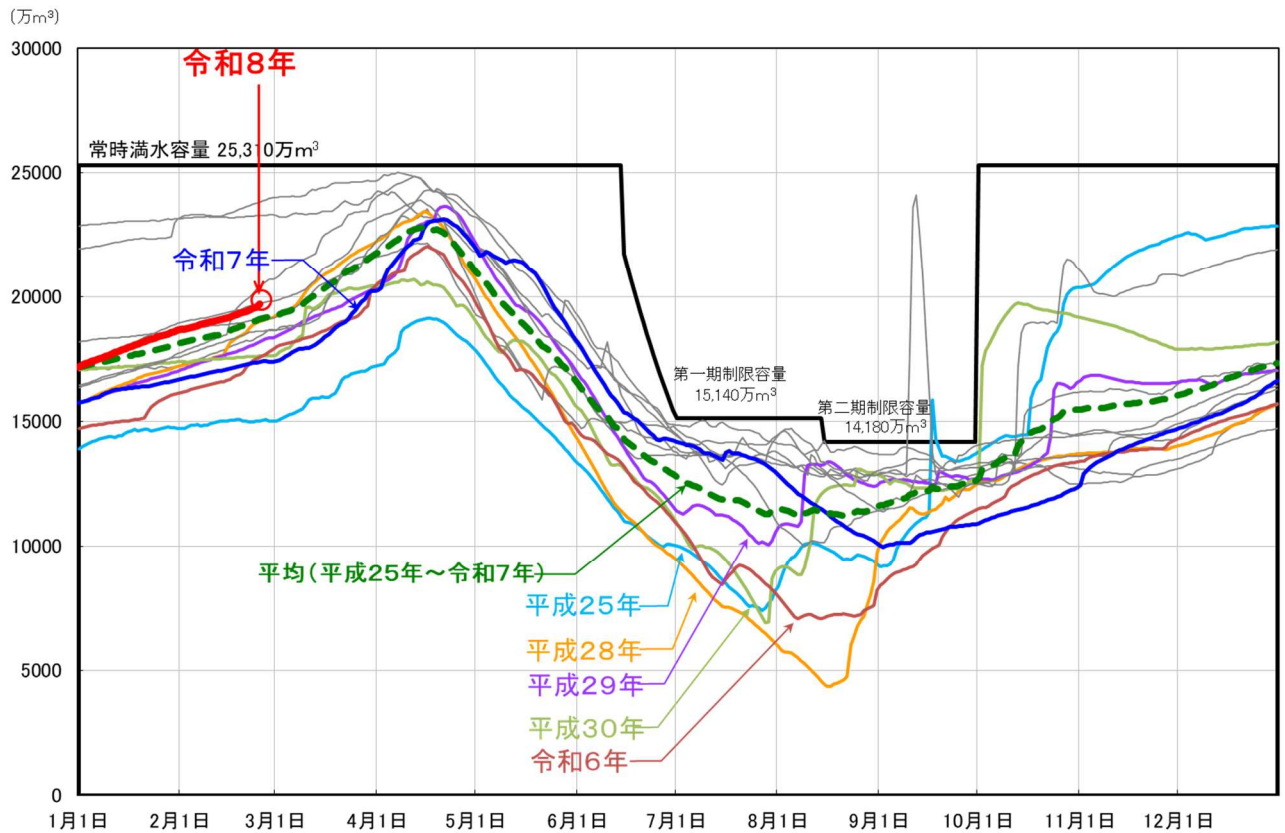
単位(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
平成27年	55	67	82	68	61	204	276	201	624	28	112	47	1,825
平成28年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392
平成29年	91	45	38	74	93	95	242	337	200	392	18	62	1,687
平成30年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653
令和元年	23	12	71	71	149	245	251	266	132	590	64	25	1,899
令和2年	106	19	78	172	108	135	231	102	369	120	12	44	1,496
令和3年	34	56	125	101	99	186	255	364	169	91	111	116	1,707
令和4年	56	53	61	115	207	145	296	162	239	77	62	48	1,521
令和5年	30	26	63	68	150	248	87	321	211	116	87	13	1,420
令和6年	74	43	133	76	162	109	169	359	185	128	82	41	1,561
平均値① (S47~R6)	51	51	75	102	125	179	225	275	281	154	82	47	1,647
平均値② (H17~R6)	51	42	70	92	130	177	236	253	289	173	63	63	1,638
令和7年	39	64	74	116	191	141	234	124	171	147	24	72	1,397
平均値①に 対する割合	76%	125%	99%	114%	153%	79%	104%	45%	61%	95%	29%	153%	85%
平均値③ (S47~R7)	51	52	75	102	126	179	225	272	279	154	81	48	1,644
平均値④ (H18~R7)	50	43	71	96	136	179	231	245	287	177	61	64	1,640
令和8年	46	22											68
平均値③に 対する割合	90%	42%											4%

注) 平均値①、③は各年に対してデータが存在する期間（53ヶ年又は54ヶ年）を平均したもの
平均値②、④は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 鬼怒川上流 4 ダムの貯水状況等（令和 8 年 2 月 26 日 0 時現在）

鬼怒川上流 4 ダムでは、9 月以降、台風 15 号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少により、貯水量は増加しました。その後、貯水量は徐々に増加し、令和 8 年 2 月 26 日 0 時時点の合計貯水量は 1 億 9,718 万 m³（貯水率約 78%）となっています。

（図－10、表－4 参照）



図－10 鬼怒川上流 4 ダム合計貯水量図（令和 8 年 2 月 26 日 0 時現在）

表－4 鬼怒川上流 4 ダム ダム別貯水量（令和 8 年 2 月 26 日 0 時現在）

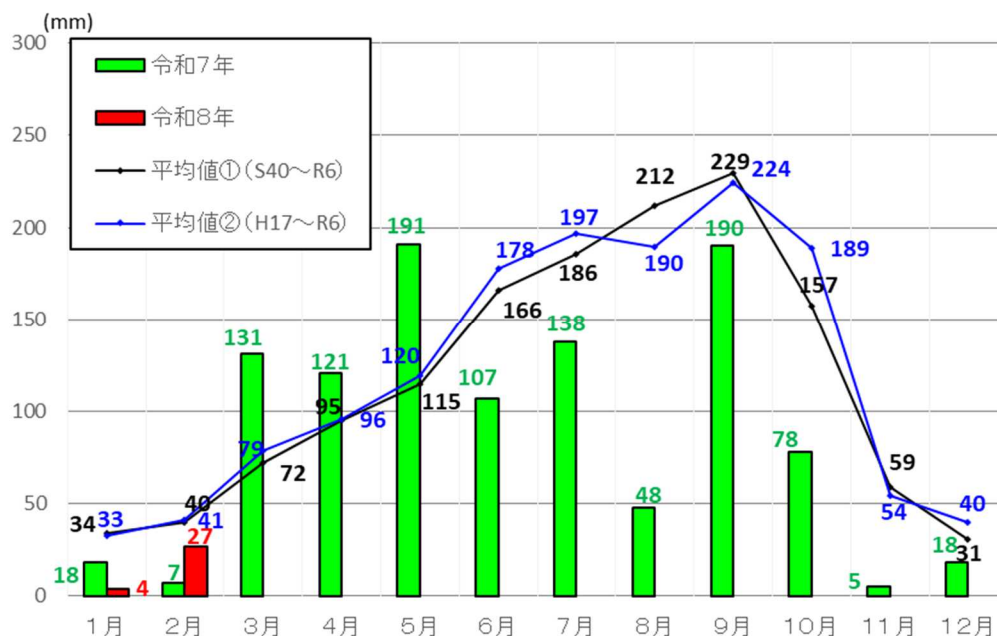
ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
五十里ダム	3,200	1,864	58%
川俣ダム	7,310	6,432	88%
川治ダム	7,600	7,054	93%
湯西川ダム	7,200	4,368	61%
4 ダム合計	25,310	19,718	78%
4 ダム合計の平均値 (平成 25 年～令和 7 年)		19,141	(平均値に対して 103%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

(3) 荒川水系

1) 秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（令和8年2月26日0時までの降水量）

秋ヶ瀬（埼玉県志木市宗岡地先）地点上流域における降水量は、6月以降、平均値（昭和40年～令和6年の60年間の平均）を下回り続けています。12月は平均値31mmの約6割である18mmであり、1月は平均値（昭和40年～令和7年の61年間の平均）34mmの約1割である4mmと特に少ない状況でした。2月は26日0時時点で平均値39mmの約7割である27mmとなっています。（図－11、表－5 参照）



図－11 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和8年2月26日0時まで）

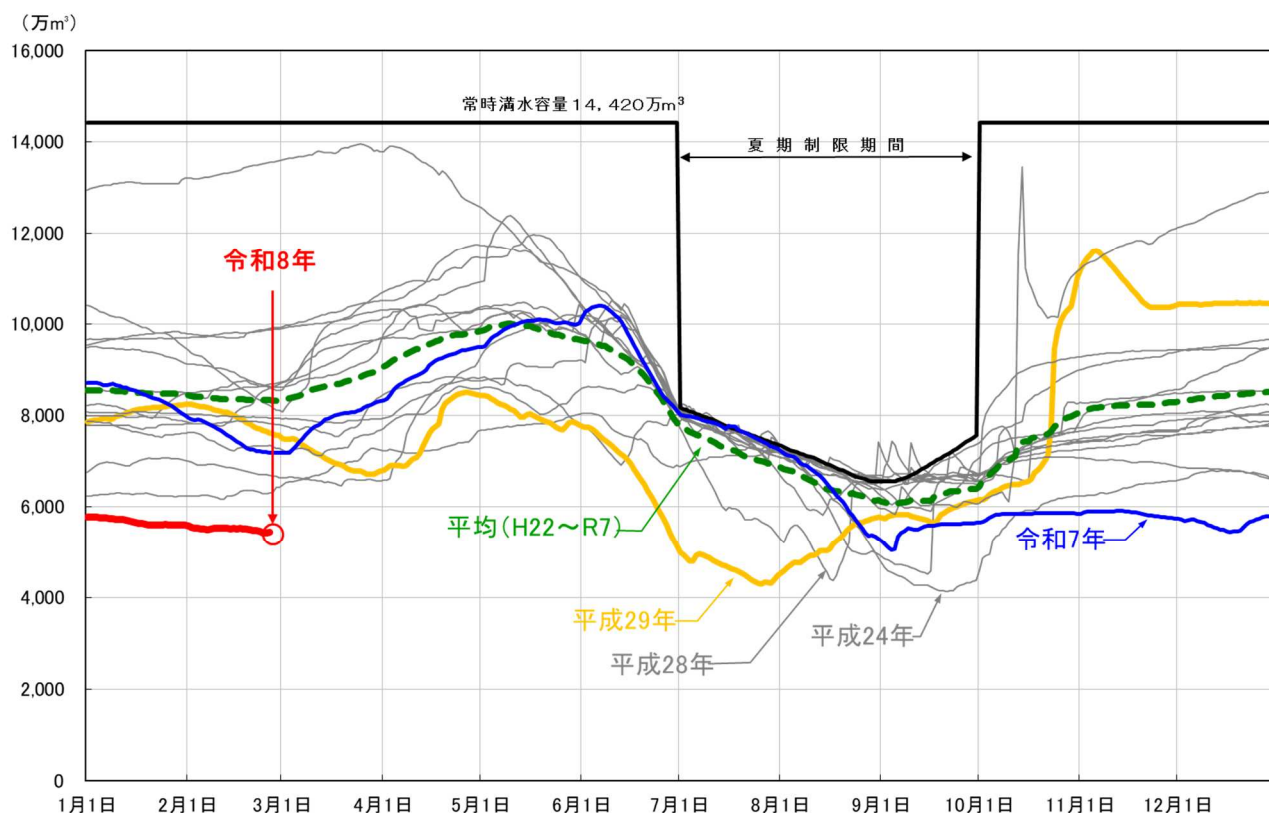
表－5 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和8年2月26日0時まで）単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成26年	8	179	51	51	73	512	125	182	125	286	62	28	1,682
平成27年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	26	119	28	1,424
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414
平成29年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,438
平成30年	27	17	160	53	124	118	200	184	340	44	21	24	1,312
令和元年	10	24	97	58	91	239	225	137	166	725	80	29	1,881
令和2年	95	11	105	186	103	221	304	56	261	209	5	3	1,559
令和3年	36	43	110	60	102	140	288	209	144	117	51	66	1,366
令和4年	7	26	65	162	110	159	278	123	233	109	64	25	1,361
令和5年	6	25	86	39	142	296	47	173	173	67	47	9	1,110
令和6年	26	58	124	72	160	184	103	409	115	146	65	2	1,464
平均値① (S40~R6)	34	40	72	95	115	166	186	212	229	157	59	31	1,396
平均値② (H17~R6)	33	41	79	96	120	178	197	190	224	189	54	40	1,440
令和7年	18	7	131	121	191	107	138	48	190	78	5	18	1,052
平均値①に 対する割合	53%	18%	181%	128%	166%	64%	74%	23%	83%	50%	8%	59%	75%
平均値③ (S40~R7)	34	39	73	95	116	165	185	209	229	156	58	30	1,389
平均値④ (H18~R7)	30	40	83	99	125	178	187	177	225	186	53	41	1,424
令和8年	4	27											31
平均値③に 対する割合	12%	69%											2%

注) 平均値①、③は各年に対してデータが存在する期間（60ヶ年又は61ヶ年）を平均したもの
平均値②、④は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 荒川4ダムの貯水状況等（令和8年2月26日0時現在）

荒川4ダムでは、9月以降、台風15号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少により、貯水量は回復しました。その後、貯水量が大きく回復するような秋雨等のまとまった降雨もなく、11月中旬から徐々に貯水量が減少し、令和8年2月26日0時時点の合計貯水量は、5,438万m³（貯水率38%）となっています。（図－12、表－6 参照）



図－12 荒川4ダム合計貯水量図（令和8年2月26日0時現在）

表－6 荒川4ダム ダム別貯水量（令和8年2月26日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
二瀬ダム	2,000	46	2%
滝沢ダム	5,800	1,808	31%
浦山ダム	5,600	2,640	47%
荒川貯水池	1,020	944	93%
4ダム合計	14,420	5,438	38%
4ダム合計の平均値 (平成22年～令和7年)		8,335	(平均値に対して65%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

2. 今後の見通し

気象予報

令和8年2月19日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(令和8年2月21日から令和8年3月20日までの見通し)によると、向こう1か月の気温は「高い」の確率が50%、降水量は「多い」の確率が40%となっています。

また、令和8年2月24日気象庁発表の3か月予報(令和8年3月から令和8年5月までの見通し)によると、向こう3か月の気温は「高い」の確率が60%、降水量は「少ない」の確率が40%となっています。

1 か月予報（令和8年2月19日発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）				
気温	関東甲信地方	向こう1か月 02/21～03/20		
		1週目 02/21～02/27		
		2週目 02/28～03/06		
		3～4週目 03/07～03/20		
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 02/21～03/20		
降雪量	北陸地方	向こう1か月 02/21～03/20		

低い(少ない) 平年並 高い(多い)

3 か月予報（令和8年2月24日発表）

気温、降水量の各階級の確率（％）				
気温	関東甲信地方	03月～05月		
		03月		
		04月		
		05月		
降水量	関東甲信地方	03月～05月		
		03月		
		04月		
		05月		

低い(少ない) 平年並 高い(多い)